

**新燃岳入山規制**

# 火山と共生「仕方ない」

## 霧島市 観光関係者ら冷静

霧島連山・新燃岳の噴火警戒レベルが7年ぶりに3(入山規制)に引き上げられた30日、霧島市の観光関係者らからは「火山と共生する地域。仕方がない」と冷静に受け止める声が上がった。(一面参照)

桜の見頃を迎えた同市牧園では同日、恒例の「桜の開かれ、多くの家族連れが花見を満喫していた。園は火口から約6キロに位置。高橋清貴支配人(49)は「危険が差し迫っている状況ではない。霧島の春を十分に楽しんでほしい」と落ち着いた様子で話した。市観光協会によると、温泉や宿泊施設のキャンセ

通行止めとなつた県道小林えびの高原牧園線=30日、霧島市牧園町高千穂(畦地文雄撮影)

千穂の県道小林えびの高原牧園線では、通行止めの看板を見てひたる車が相次ぐ。東京都の50代の夫婦は高千穂峰を登山する予定だった。「驚いたが自然相手では仕方がない。温泉に入つてゆっくりする」と口をそろえた。

一方、登山に訪れた観光客からは落胆の声も。通行止めとなつた同市牧園町高千穂(49)は「警戒レベルを引き上げた後は、レベルを下げるまでの見極めが大変になると心配した。

2024年3月31日付社会面

【問1】 霧島連山・新燃岳の噴火警戒レベルが3になつたのは、何年ぶりでしょう。

7年ぶり

【問2】 噴火警戒レベルを上げたのは、どこの省庁でしょう。

気象庁

【問3】 問2は、どんな規模を想定していると説明したのでしょうか。

単発的な爆発を繰り返す現在の桜島のような規模

【問4】 2011年の噴火は、何を放出したのでしょうか。

多量の火山灰や軽石

むずかしい漢字とことば

霧島(きりしま) 新燃岳(しんもえだけ) 噴火(ふんか) 警戒(けいかい) 地域(ちいき) 見頃(みごろ) 迎(むか)え 恒例(こうれい)=いつも決まって行われること 満喫(まんきつ)=心ゆくまで十分に楽しむこと 危険(きけん)=迫(せまる) 状況(じょうきょう) 温泉(おんせん) 宿泊施設(しゅくはくしせつ) 延期(えんき) 把握(はあく) 訪(おとず)れ 落胆(らくたん) 高千穂(たかちは) 看板(かんばん) 峰(みね) 驚(おどろ)く

